

③五ヶ瀬川かわまちづくり事業（鮎やな周辺の整備）

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所

全建賞審査委員会の評価ポイント

延岡市の観光拠点である大貫地区周辺で、大瀬川の河道掘削に合わせて水辺の環境整備を行った事業。その土地特有の歴史ある「鮎やな」を中心に据え、地元住民・関係機関と議論を重ねてプランを作った結果、延岡市を代表する憩いの場・観光スポットに育ちつつある点や、各施設の利用者数もしっかりカウントされ、またそのいずれも増加傾向を示しており、成果が分かりやすく示されていることを評価。



「大貫かわまち交流広場」の全景

1. はじめに

宮崎県の北部に位置する延岡市のほぼ中央を流れる清流五ヶ瀬川は、大瀬川を分派後、河口にて祝子川、北川を合わせ、日向灘に注ぐ、幹川流路延長106kmの一級河川である。

秋になると大瀬川に「鮎やな」が架設され、季節の風物詩となっている。

この「鮎やな」は、江戸時代、延岡藩主三浦氏（元禄6年（1693））の時代から地域の特産として幕府に献上、保護された記録があり、およそ300年もの歴史を誇り、川原で鮎を焼く風景は環境省が選定する「日本かおり風景百選」にも選ばれている。

2. 事業の概要

五ヶ瀬川かわまちづくりでは、「延岡の街の魅力と五ヶ瀬川の魅力をつなぐ」をコンセプトにして、歴史ある「鮎やな」の風情を活かし、川の自然の恵みを味わい、河川空間における自然体験活動拠点としての利活用を創出し、水辺空間の整備と利活用推進の取組みを行っている。

大瀬川兩岸の河道掘削工事に合わせた「大貫かわまち交流広場」の整備にあたっては、地元住民や活動団体メンバー主体で構成した「大貫水辺プロジェクト」を立ち上げ、利活用・維持管理を踏まえた整備プランの構築を行い、模型を使った整備内容の共有、現地検討会における護岸形状等の確認を行い、関係者を招いた整備の完成式典も執り行った。

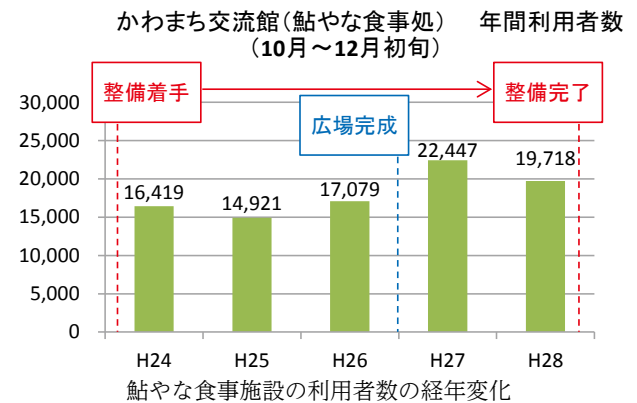
また、「鮎やな」架設時のやなの見学や食事提供等の観光利用の他、花火大会の観覧場所、小学生の稚鮎の放流イベント、近隣中学校の駅伝大会、食事施設を利用した環境学習や安全講習等に利活用され、日常的にも広場横の浅瀬で遊ぶ子どもたちの姿や地域住民参加型の清掃活動が行われ、この場所を中心とした「まちなかカヌーツアー」のイベントが始まり、多様な利活用の輪が広がっ

ている。

また、平成28年の「都市・地域再生等利用区域」指定により、さらに多くの賑わいが期待されている。

3. 事業の成果

「鮎やな」設置時の来訪者数は、平成27年に約2万2千人を超え、延岡市が目標としていた2万人を達成した。そのうちの約47%が延岡市内からの来訪だったが、約31%が宮崎市等のその他県内から、約22%が県外からと、東九州道の整備効果も十分に表れたものと理解している。



4. おわりに

五ヶ瀬川かわまちづくりの取組みは、実践組織である「天下一五ヶ瀬川かわまち創ろう会」のメンバーの手によって、地域活動の促進、河川空間利活用の再認識を促し、平成28年に「都市・地域再生等利用区域」に指定することによって、「鮎やな」を中心とした「水郷のべおか」の水辺のにぎわいがより一層活発化している。

今後も地域住民、活動団体、延岡市、国土交通省が一体となった五ヶ瀬川かわまちづくりの取組みを推進したい。

賛助会員 (株)建設環境研究所